

# 東北地方 3 か月予報

( 9 月から 1 1 月までの天候見通し )

平成 1 8 年 8 月 2 4 日  
仙台管区气象台発表

## < 予想される向こう 3 か月の天候 >

向こう 3 か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。  
この期間の平均気温は高い、降水量は平年並か少ないでしょう。

9 月 天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い時期があるでしょう。東北地方は平年に比べて晴れの日が多い見込みです。

気温は高い、降水量は平年並か少ないでしょう。

1 0 月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は高い、降水量は平年並でしょう。

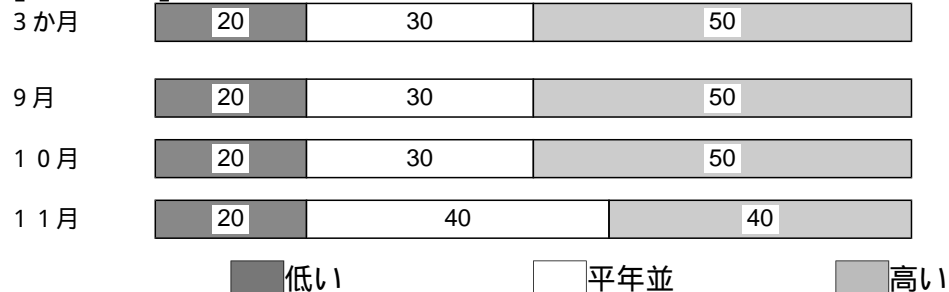
1 1 月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は平年並か高い、降水量は平年並でしょう。

## < 向こう 3 か月の気温、降水量の各階級の確率 ( % ) >

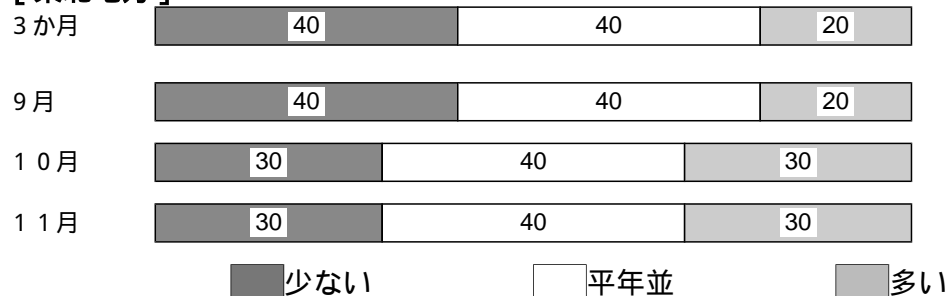
### < 気温 >

#### [ 東北地方 ]



### < 降水量 >

#### [ 東北地方 ]



**< 次回発表予定等 >**

1 か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月25日

3 か月予報：9月25日(月) 14時

寒候期予報：9月25日(月) 14時

9月の予報については、新しい資料による次回以降の1 か月予報を適宜ご利用ください。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量）

	気 温 ( )				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	9月	10月	11月	9月～11月	9月	10月	11月	9月～11月	9月	10月	11月	9月～11月
青森	18.9	12.6	6.4	12.6	119.8	106.0	131.7	357.5	160.0	152.9	91.4	404.2
深浦	19.1	13.3	7.5	13.3	176.0	165.6	147.2	488.7	155.4	135.3	71.4	362.1
むつ	18.0	12.2	6.3	12.1	172.7	115.4	115.4	403.5	144.4	159.9	106.5	410.8
八戸	18.6	12.7	6.6	12.7	167.7	77.0	61.2	306.0	144.1	163.1	136.5	443.7
秋田	19.9	13.6	7.6	13.7	177.9	160.7	183.5	522.1	154.9	148.1	84.7	387.7
盛岡	18.3	11.8	5.7	11.9	157.5	97.8	93.1	348.4	123.7	149.0	118.8	391.4
大船渡	19.3	13.8	8.2	13.8	218.7	142.3	104.5	465.4	119.1	146.9	139.5	405.6
宮古	18.6	13.1	7.7	13.1	229.4	105.7	85.6	426.7	123.0	155.8	146.3	425.1
仙台	20.4	14.8	9.1	14.8	218.4	99.2	66.8	384.3	119.8	151.8	140.2	411.8
石巻	19.9	14.2	8.3	14.1	163.1	104.1	65.1	332.3	134.0	159.7	149.3	443.0
山形	19.7	13.2	7.2	13.4	134.3	76.0	80.8	291.1	125.6	131.1	99.6	356.3
新庄	19.0	12.3	6.2	12.5	153.0	151.9	195.4	500.3	112.3	103.6	62.1	278.0
酒田	20.5	14.7	9.0	14.7	185.4	173.7	223.9	584.3	149.6	143.1	80.4	373.1
福島	20.7	14.8	9.0	14.8	169.2	95.3	63.4	327.8	112.6	139.3	130.6	382.5
若松	19.9	13.2	7.0	13.4	134.0	77.6	73.3	284.8	125.2	119.9	88.3	333.4
白河	19.1	13.2	7.6	13.3	215.9	111.9	65.0	392.9	111.3	144.2	146.4	402.0
小名浜	21.3	16.1	10.8	16.0	205.8	153.1	87.7	446.6	135.5	155.3	160.2	451.0

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、３か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（２）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	9月	10月	11月	9月～11月
気温平年差( )	東北地方	-0.5 ～ +0.2	-0.6 ～ +0.3	-0.3 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.4
	東北日本海側	-0.5 ～ +0.3	-0.6 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.5	-0.4 ～ +0.4
	東北太平洋側	-0.4 ～ +0.3	-0.4 ～ +0.3	-0.3 ～ +0.6	-0.2 ～ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	86 ～ 110	83 ～ 105	80 ～ 107	95 ～ 107
	東北日本海側	83 ～ 108	88 ～ 107	92 ～ 103	93 ～ 111
	東北太平洋側	87 ～ 112	63 ～ 113	68 ～ 111	93 ～ 108
日照時間平年比(%)	東北地方	97 ～ 106	97 ～ 103	96 ～ 106	98 ～ 102
	東北日本海側	99 ～ 108	97 ～ 101	95 ～ 106	96 ～ 103
	東北太平洋側	97 ～ 106	99 ～ 106	95 ～ 105	98 ～ 103

（３）接近する台風の平年値

	9月	10月	11月
東北地方	0.8	0.3	0.0

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の３つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

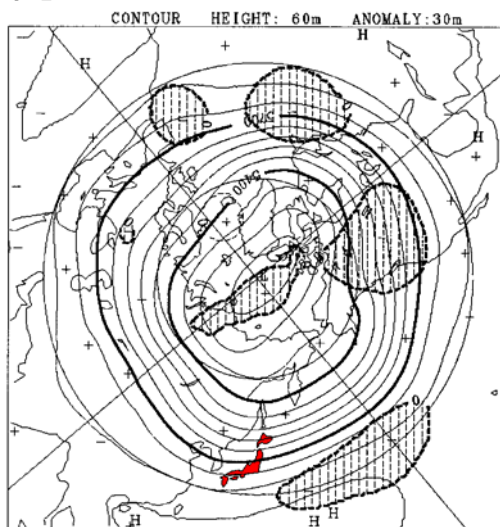
# 東北地方 3か月予報解説資料 (9~11月)

平成 18 年 8 月 24 日 仙台管区气象台

## 1. 数値予報 (アンサンブル予報) による大気の流れの予想

### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図 (右図):

予想図では、日本付近は広い範囲で正偏差域 (暖気に対応) に覆われる。このためこの資料からは3か月平均気温は高い傾向が予想される。



### 3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図

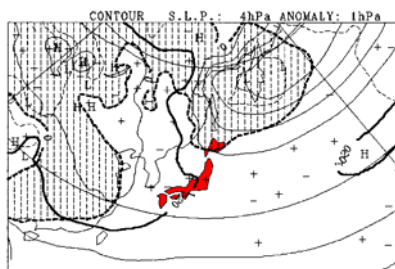
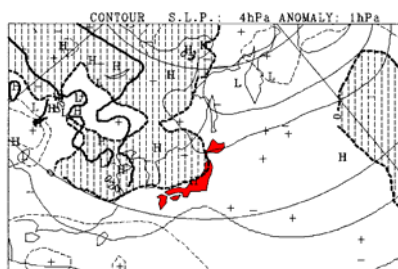
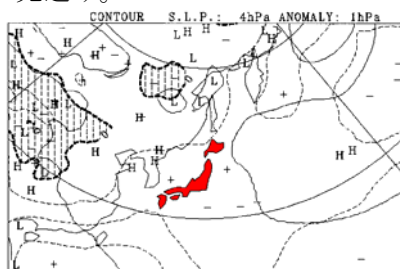
実線は等高線: 60m 毎、点線は偏差: 30m 毎  
陰影部は負偏差 (一般に寒気に対応)

### 月別の地上気圧と偏差の予想図 (下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。):

9 月: 極東域は広く正偏差 (平年より気圧が高い) で、東北地方は高気圧に覆われやすく平年に比べて晴れの日が多い見込み。

10 月: 日本付近の中緯度は東西が高圧部で移動性高気圧に覆われやすい。寒気の南下は少なく天気は数日の周期で変化し、東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込み。

11 月: カムチャツカ半島付近が低圧部となり北海道もほぼ負偏差。大陸に高圧部があり日本付近まで張り出すが平年に比べ強くはない。日本付近の等圧線の間隔は広く、高気圧と低気圧が交互に通過する見込み。冬型の気圧配置は一時的で寒気の南下は少なく、東北日本海側は平年に比べて晴れの日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込み。



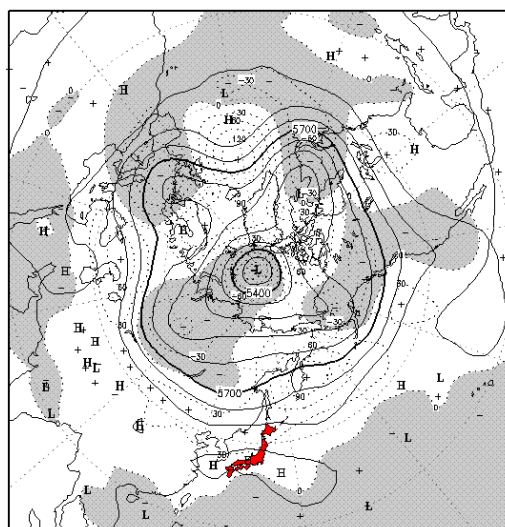
### 月別の地上気圧と偏差の予想図 (左から 9 月、10 月、11 月)

実線は等圧線: 4hPa 毎、点線は偏差: 間隔 1hPa 毎、陰影部は負偏差

## 2. 循環場の特徴

8 月: 500hPa 高度では、日本付近の中緯度帯は正偏差で、太平洋高気圧は日本付近で強い。一方、日本の南海上は台風が次々と発生したため負偏差が広がっている。

東北地方は、上旬は太平洋高気圧の影響で晴れて暑い日が多かった。中旬は日本の南海上を台風第 10 号がゆっくり西進したため、東北地方には日本の南東海上から台風を廻る暖かく湿った空気が入り込み、東北太平洋側南部では曇りの日が多かった。東北日本海側では山越えのフェーン現象が起きたため晴れて暑い日が続いた。



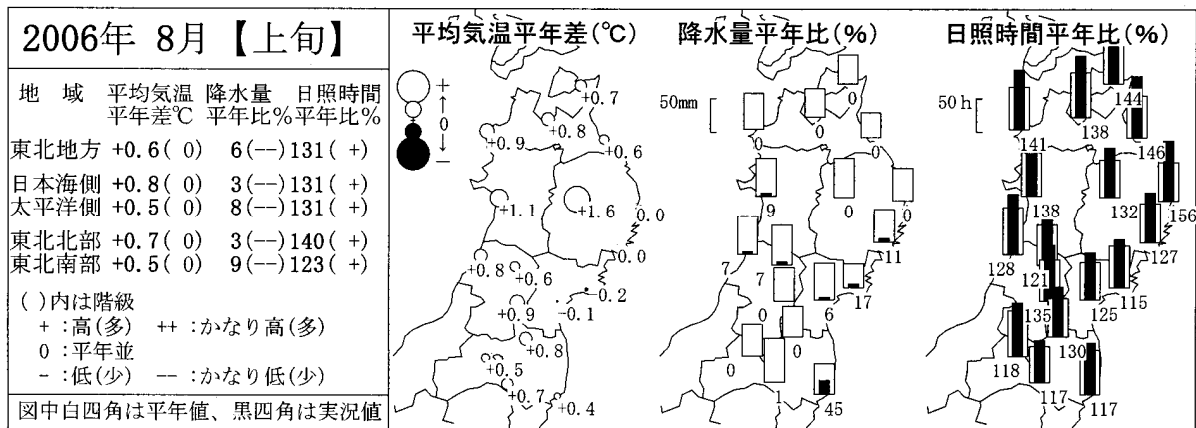
### 8 月 1 日~20 日の平均 500hPa 高度

実線は等高線: 60m 毎、点線は偏差: 30m 毎  
陰影部は負偏差

### 3. 最近の天候経過

**8月上旬：**1日は梅雨前線や低気圧が本州付近に位置し、東北地方は曇や雨のところが多く、またオホーツク海高気圧や寒気の影響で気温は低かった。2日からは前線が北上し太平洋高気圧に覆われ晴れて気温の高いところが広がった。東北地方は2日ごろ梅雨明けしたと見られる。9日と10日には上空に寒気が入り大気の状態が不安定となったため、局地的に雷雨となった。

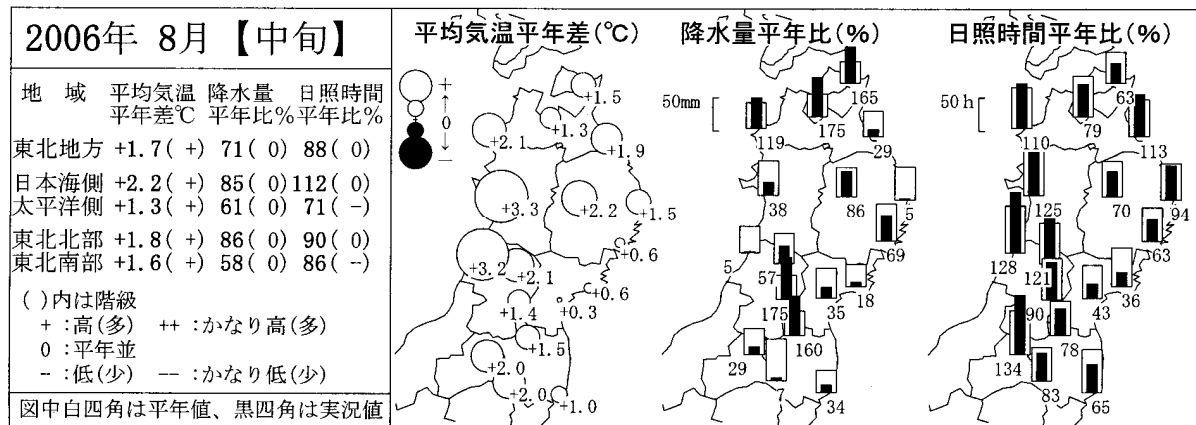
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方でかなり少ない。日照時間は東北地方で多い。



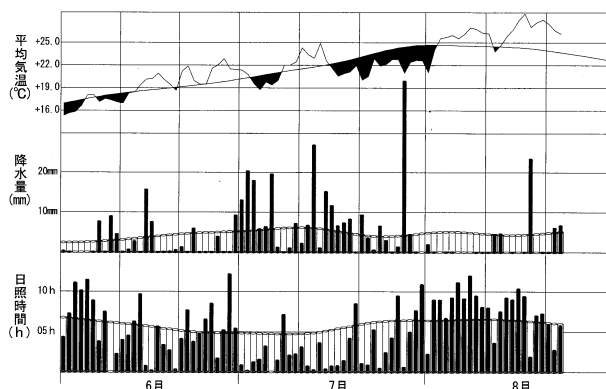
東北地方における8月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

**8月中旬：**期間のはじめは上空に寒気が入り込んだため大気の状態が不安定となり、にわか雨や雷のところが多く、山形県では降ひょうにより農作物への被害があった。その後は、日本の南海上をゆっくり進んだ台風第10号の影響により暖かく湿った空気が入り込み、東北太平洋側南部では曇りの日が多く、東北日本海側では晴れの日が多かった。また、東北日本海側を中心にフェーン現象が顕著にみられ、日最高気温が35℃以上を観測するところもあった。18日には暖かく湿った空気が入り込んだため、大気の状態が不安定となり東北北部と東北日本海側を中心に大雨となった。

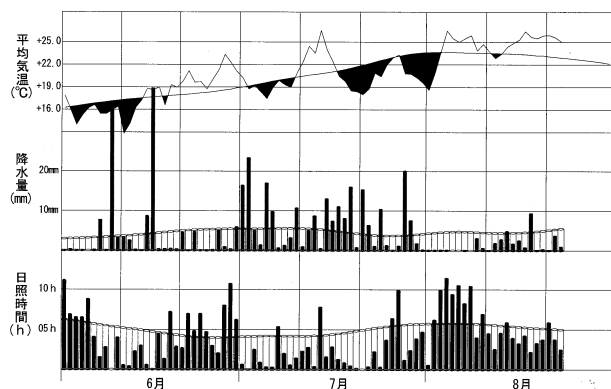
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。



東北地方における8月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

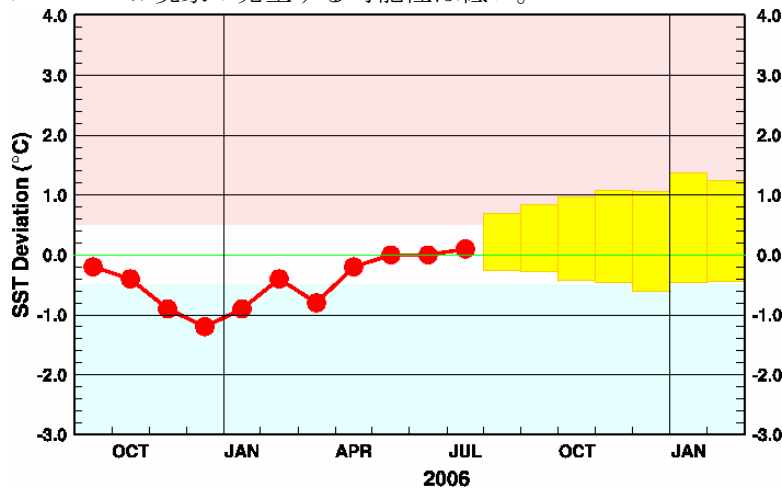
気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

#### 4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

[エルニーニョ監視速報](#) (No. 167) より抜粋。(気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、西部から中部にかけて平年より高く、東部ではほぼ平年並だった。海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)の水温は、西部および中部で正偏差だった。太平洋赤道域の対流活動はほぼ平年並だった。

エルニーニョ監視海域の海面水温は今後基準値に近い値で推移すると予測され、予測期間中にエルニーニョ現象の発生する可能性は低い。



左図は、エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の先月までの推移(折れ線グラフ)と今後の予測(ボックス)を示している。各月のボックスは、エルニーニョ予測モデルから得られた予測値が70%の確率で入る範囲を示す(基準値はその年の前年までの30年間の各月の平均値)。

#### <参考資料>

##### ①. 平年の天気出現日数(日)

	9 月		10 月		11 月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.3	13.2	14.8	17.6	9.2	17.7
雨の日	12.5	12.0	13.0	8.8	15.8	8.1

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。

##### ②. 台風

東北地方は、9月が1年間で最も台風の接近する季節です(右図)。

熱帯の海上で発生した台風は上空の風に流されて動き、また地球の自転の影響で北へ向かう性質を持っています。そのため、通常東風が吹いている低緯度では台風は西へ流されながら次第に北上し、上空で強い西風(偏西風)が吹いている中・高緯度に来ると台風は速い速度で北東へ進みます。

9月の中ごろは太平洋高気圧が弱まり始め、台風が東北地方に接近しやすい気圧配置が出現しやすくなり、さらに秋雨前線の影響もあわせて受けやすくなります。

台風によって引き起こされる災害には、風害、水害、高潮害、波浪害などがありますが、これらが単独で発生することではなく、複合して発生し大きな被害となります。過去の被害からみると9月に来襲した台風が大きな被害をもたらしています。これは、9月は上陸数・接近数が多い上に、この頃には日本列島付近に秋雨前線があり、台風の東側を廻って前線に流れ込む湿った空気が前線の活動を活発化させて大雨を降らせるためです。

台風や発達する熱帯低気圧に関する情報は気象庁本庁や各地の気象台から随時発表しますので、最新の情報を使用し防災にお役立てください。

(注：台風が上陸したかどうかにかかわらず、台風がそれぞれの地域のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「その地域に接近した台風」としています。)

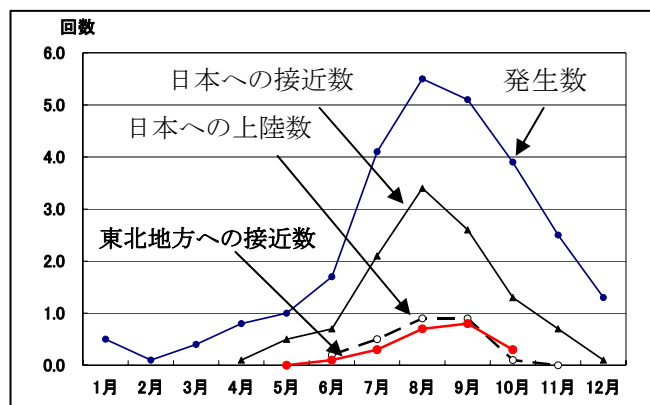


図 台風の月別発生・接近・上陸数の平年値